

総論

満点	100点	目標得点	78点	試験時間	60分	偏差値	A:70 B:72
大問数	3	小問数	77				
【解答形式】		選択式	54/77問	記述式	18/77問	論述式	5/77問
【問題難易度】		C	4/77問	B	32/77問	A	41/77問
※問題難易度：C 難問、B 合否を分ける問題、A 正答すべき問題、を示す							

Topics

- 1：各大問にリード文が復活し、昨年度よりも若干難化した。
- 2：地図問題が出題されなかった。
- 3：時事的な、特に経済系の知識（リーマン=ブラザーズ、サブプライムローン）が必須。

こんな力が求められる！

大問Ⅰの最初の空欄補充の解答が「リーマン=ブラザーズ」、次が「サブプライムローン」と、一昨年から世界を騒がせている用語が出題された。昨年度の大学入試でも、世界的な経済混乱を背景とした出題が目立ったが、あくまでもその出題は、現在の経済混乱を切り口として、過去にその教訓を求めようとする立場からの出題である。今回の経済混乱の直接的な原因を設問としてきたのは、商学部という学部の特性からであろう。高校生であるとはいっても、商学部を志望するのであるのならば、日頃から新聞やニュースに接して、経済的な問題に関心を持っていて欲しいとの大学側のメッセージであろう。偏差値だけで志望大学や志望学部を決めようとする最近の風潮に対するアンチテーゼによる出題だろうが、確かに興味のない分野の学部・学科に進学しても4年間は針のムシロになるだけである。同じように、受験科目にないからといって、数学が苦手なのに経済系の学部を選択するのも、進学後に苦労するパターンになる。慶應義塾大学では入試問題で、明確にそのメッセージを伝えている。いずれにしても、普段から時事的な問題に関心を持ち、それを起点に歴史をさかのぼっていくことが必要である。

同じ大問Ⅰでは、世界恐慌時の失業者数や工業生産指数が問われている。資料集などに掲載されているグラフを用いた学習をしていれば問題はないだろうが、語句の暗記だけに頼るような、または一問一答ばかりで学習しているようでは対応できない。また本年度は地図の出題がなかったが、商学部では頻出である。地図問題も普段からの学習姿勢が問われる問題である。

論述問題の出題も、商学部の特徴の一つである。最大字数についてだが、2008年度は80字、2009年度は85字と大きな変動はなかったが、今年度は50字と大きく減少している。合計字数では2008年度が120字、2009年度が145字で、今年度は110字である。字数そのものは多少減ってはいるが、その内容は歴史的な背景の理解が必要であり、かつ国語力も要求されるものである。練習を全くしていないで受験をすると苦しいだろう。いずれにしても丸暗記の学習で、対応できるわけではない。

【I】

予想配点	45/100点	時間配分の目安	30/60分
出題分野・テーマ	バブル経済の歴史		
出題形式	空欄補充（選択・記述）、論述（50字）		
小問別難易度	※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す		
問1	(1)(2) B (3)(4) B (5)(6) A (7)(8) A (9)(10) A (11)(12) B (13)(14) A (15)(16) B (17)(18) B (19)(20) C (21)(22) A (23)(24) B (25)(26) A (27)(28) B (29)(30) C (31)(32) C (33)(34) A (35)(36) A (37)(38) A (39)(40) A (41)(42) A (43)(44) B (45)(46) C		
問2	(a) A (b) A (c) B (d) A (e) B (f) A (g) A (h) B		
問3	A		
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連	平常授業に加えて夏期講習・冬期講習・直前特訓の内容を有機的に結合することが必要		

●本大問の特徴・概要

リーマン=ブラザーズ、サブプライムローン、ロックフェラーセンターのように、必ずしも世界史の教科書には記載されていない時事的な経済知識が出題された。決して難問というわけではないが、新聞やニュースなどで時事的な情報に接していないと苦しい。問1は選択式の空欄補充が23問、選択肢の数は67個である。問2は記述式の空欄補充が8問、全て解答は人名。問3が50字の論述問題。本年度の論述の中では最大の字数である。単なる歴史知識だけでは解答できない作問になっている。

●注目すべき小問

[C難問]

問1

- (19)(20) 正解の「公認会計士」は歴史用語ではないが、商学部生の中に志望者が多くいることから出題されたのだろう。選択肢の中から該当しそうな用語を抜き出して考えていくしかない。
- (29)(30)・(31)(32) 世界恐慌時の工業生産指数と失業者数を問うているが、資料集や教科書のグラフや図表に慣れていないとできない。暗記だけに頼った学習では対応できないという見本のような問題である。
- (45)(46) 「米国の石油王」というヒントから、ロックフェラーが導ければよいが、「ニューヨークのシンボル」にこだわりすぎると、間違えてしまう。

[B合否を分ける問題]

問1

- (1)(2)・(3)(4) 何でも書くように、普段から新聞・ニュースに接すること。受験勉強ばかりでは、一般教養のない人間になってしまう。
- (15)(16) これも経済用語になるが、商品としてまだ存在していない物を取り引きしているという文脈を読み取ることができれば、選択肢の方から解答を導くことができるだろう。
- (27)(28) 10月24日の曜日まで分からないと解答できない設問だが、実は過去に何度か出題されている。
- (43)(44) 近年、プラザ合意は早慶レベルで頻出である。今年度は慶應義塾大学経済学部でも出題されている。来年度以降も注意を要する用語である。

問2

- (c) イギリスの王立協会会長という部分で判断すること。
- (e) 世界恐慌はフーヴァー大統領が就任した年に発生しているので、その前代の大統領であるクーリッジが正解。
- (h) プラザ合意と合わせて覚えておくこと。

【Ⅱ】

予想配点	25/100点	時間配分の目安	15/60分
出題分野・テーマ	海のシルクロード		
出題形式	空欄補充（選択）、短答（記述）、論述（15字・20字）		
小問別難易度	※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す		
問1	(47)(48)A (49)(50)B (51)(52)B (53)(54)B (55)(56)B (57)(58)A (59)(60)A (61)(62)A (63)(64)A (65)(66)B (67)(68)A (69)(70)B (71)(72)B		
問2	(1)A (2)B (3)A (4)B (5)B (6)A (7)A		
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連	平常授業に加えて夏期講習・冬期講習・直前特訓の内容を有機的に結合することが必要		

●本大問の特徴・概要

海のシルクロード、つまりインド洋と東南アジア地域の海上交易をテーマとしている。やはり頻出のテーマであり、内容も標準的である。問1は選択式の空欄補充が13問で、選択肢は39個。問2は記述式で論述が2問（20字・15字）と他に10字以内の記述が1問出題されている。論述のテーマ設定に微妙な部分があるので多少の許容解があるだろう。大問1番の印象が強いが、それに惑わされることなく落ち着いて解答すれば満点も夢ではない。

●注目すべき小問

[B合否を分ける問題]

問1

(49)(50)・(51)(52)ともに交易で取り扱われた品目。資料集などで確認をしていないと失点してしまうだろう。

(53)(54)ヒントが9世紀後半しかないので、時期の特定ができないと苦しい。全ての年号を覚えておく必要は必ずしもないが、全く覚えておかないと、このような問題に対応できない。

(55)(56)宋代には景德鎮などでの陶磁器生産が発達したことを思い出して欲しい。

(65)(66)普段から地図帳を手元において学習をしていないと、雲南とベンガル湾の位置関係が分からずに難しく感じるだろう。

(69)(70)・(71)(72)苦手なアフリカ史の、しかも地理的な問題。アフリカ東岸の都市はマリンディが最も知られているが、慶應義塾大学では2番手・3番手にも注意しておくこと。

問2

(2)問題の設定が漠然としており、解答に自信を持ちづらい出題である。作問に気を配って欲しい問題である。

(4)宋代の西域事情が分かっていると解答は作れない。同時代史の重要性を認識して欲しい設問である。

(5)これも解答がしづらい設問である。どの程度までの許容解が許されるのかで点数は変わってくるだろうが、歴史の因果関係をしっかりと把握しておいて欲しい。

【Ⅲ】

予想配点	30/100点	時間配分の目安	15/60分
出題分野・テーマ	塩の歴史		
出題形式	空欄補充（選択）、正誤、短答（記述）、論述（20字・25字）		
小問別難易度	※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す		
問1	(73)(74)A (75)(76)A (77)(78)B (79)(80)B (81)(82)B (83)(84)A (85)(86)A (87)(88)A (89)(90)B (91)(92)B (93)(94)A (95)(96)A		
問2	(97)A (98)A (99)A (100)A (101)B (102)A		
問3	(1)A (2)B (3)B (4)A (5)B (6)B (7)B		
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連	平常授業に加えて夏期講習・冬期講習・直前特訓の内容を有機的に結合することが必要		

●本大問の特徴・概要

「塩」をテーマとした出題だが、テーマとしては頻出分野であるので、類似の問題を解いたことのある人も多かっただろう。当然、そのような人に有利となるが、それは問題演習量が合格に直結することの表れといえる。問1は選択式の空欄補充が12問、選択肢は36個ある。問2は慶應義塾大学の出題としてはめずらしく正誤判断の問題。ただし内容は基本事項であるので、全問正解をして欲しい。問3は記述式で、論述が2問、また字数指定のある記述（漢字2字、7字以内、漢字4字）も出題された。

●注目すべき小問

[B合否を分ける問題]

問1

- (77)(78)クラクフはポーランドの古都。ポーランドの首都というと、すぐにワルシャワが思い浮かぶが、幸いなことに選択肢にないので、必ずしも難解な問題というわけではない。
- (79)(80)ザルツブルク出身というヒントでモーツァルトを解答させるのはやや難か。
- (81)(82)三十年戦争でバルト海の制海権を握ったのはスウェーデンである。早稲田大学法学部では、過去にバルト海制海権の歴史を論述させている。
- (89)(90)唐代の書道家というヒントで選べるだろう。顔真・は安史の乱の際に義勇兵を率いて、反乱に抵抗したことで知られている。
- (91)(92)黄巢の乱は大問Ⅱ番で既出であるが、ここではその反乱の先駆けとなった王仙芝が出題されている。

問2

- (101)西周の鎬京と秦の咸陽は渭水を挟んだ位置にあるので、正誤問題で「近くに」と表現されるととまどうかもしれない。両者ともに西安近郊とくくっておくようにしよう。

問3

- (2)これも同時代史が理解できていないと苦しいか。
- (5)均輸法と平準法の名前は知っていても、両者の違いが正確に理解できていないと得点にならない。単に物価を調整する制度では正解とはならないだろう。
- (7)問題文中の Kolkata とは Calcutta のこと。4綱領で推測できるだろうが念のため。「漢字4字で答えよ」なので、ボイコットは不可。